

ヘブライ的に考えれば、働く神の働き又は働きの態が *Shema* なのである。この *Shema* がキリスト教信仰に於ては、イエス・キリストと結合されて、ロゴスが肉體をとつて身體化した者がキリストであると考えられたのである。キリスト教には信仰は信仰であつて智慧ではないとの考えは今でも廣く行われているが

それは、いわゆる此の世の智慧または哲學の否定である限りにおいてのみ正しい。しかし信仰はかかる否定にとどまるものではなく、否定を媒介とする眞實の智慧として文化をその奥底から更新してゆくべきものと思うのである。

(文責在記者)

受贈交換誌(一)

(昭和三十年七月—十二月)

- アカデミア 第十輯
- アメリカーナ 第一號、第二號
- 上野圖書館紀要 第二冊
- 懷德 第二六號
- 關西大學文學論集 第四卷四號
- 九州大學教育學部紀要 第三輯 第十號
- 教化研究 第十號
- 京都市立美術大學研究紀要 第二號
- 京都女子大學紀要 第十一號
- 訓点語と訓点資料 第五号
- 群馬大學紀要自然科学篇 第四卷
- 群馬大學紀要人文科学篇 第四卷
- 藝術學 第三號
- 研究集報 第二號
- 研究論集 第十號、第十一號
- 神戶女學院大學論集 第二卷一、二號
- 神戸大學經濟學研究年報 第一號
- 國學院雜誌 第五十六卷三、四號
- 國語副詞の史的研究 第三號
- 國際宗教研究所紀要 第二號
- 國文學(關西大學國文學會) 第十四號
- 國文學論叢 第五號
- 埼玉大學紀要 第四號
- 史觀 第四十五冊
- 眞宗學 第十三、四號
- 眞宗研究 第一號
- 神道史研究 第三卷四號、五號、六號
- 聖心女子大學論叢 第六號
- 社會科報告 第二號
- 社會福祉評論 第八號
- 人文科學研究(明治大學) 第三號
- 人文研究 第六卷七號、八號
- 第九號、十號、十一號
- 人文論究 第五卷六號
- 人文論究(北海道學藝大學) 第十四號
- 禪文化 第二號
- 高田學報 第三十八號
- 千葉大學文理學部紀要—文化科學— 第一卷三號
- 東京大學教養學部・人文科學科紀要 第七輯
- 東京女子大學論集 第三卷二號
- 東京女子大學比較文化研究所紀要 第一卷
- 東洋學報 第三十七卷四號
- 東洋文化研究所紀要 第三十八卷一號、二號
- 東洋文化研究所紀要 第七冊
- 同朋學校 旬刊號
- 名古屋大學文學部 第十號、十一號
- 日本文藝研究 第十二號
- 第六卷三、四號

御文の假名遣 藤原 德悠

伊勢物語の研究 鷺山 樹心

神田本白氏文集の假名字體 水田紀久

春風馬埤曲についての疑問 山本唯一

貫之晩年の歌風 仲野 良一

東洋史學會・支那學會

◆ 論叢會 於 研究室

每週不曜日午後一時

「漢魏兩晉南北朝佛教史」

— 大學院佛教文化專攻學生による —

每週土曜日二時限 「舊唐書」文苑傳

每週土曜日三時限 「二十二史劄記」

◆ 「京劇」聽劇 於 南座

六月二十七日 午後五時半より

指導 中田・水谷教授、支那學專攻學

生全員參加

英 文 學 會

◆ 新入生歡迎會

五月七日 於・千本スター食堂

出席者 杉平教授、外學生十數名

◆ 英文學讀書會

五月十二日 於・研究室

◆ 三十一年度第一回讀書會

六月二十三日 於・研究室

發表者 倉橋公之、「Sons and Lovers

及び The Lady Chatterley's Lov-

er にあらはれたローレンスのエロ

イズムと夢」

發表者 小森昇、「Pope's Essay on

Criticism に於ける Nature と Wit

にこそ」

次回は九月中旬開催の豫定。

受贈交換誌 (一)

(昭和三十年七月—十二月)

文化 第七卷一、二號

文學部論叢 第百六十八號、

北海道大學文學部高紀要 第百六十九號

三重縣立大學研究年報人文科學 第四號

密教文化 第一卷一號

山口大學文學會誌 第六卷二號

大和文化研究 第三卷三、四號

大和文化研究 第三卷三、四號

大和文化研究 第三卷三、四號

横濱市立大學紀要

立命館文學

龍谷大學論集

第二十七號

第二百二十四號

第二百二十五號

第三百四十九號